

A. ラジオテレメトリー調査

大和市泉の森において雄 2 羽、相模原市西大沼において雄 1 羽の計 3 羽を捕獲した。大和市で捕獲した 2 羽のうち、1 羽は捕獲当日に個体から脱落してしまったため追跡ができなかったが、残りの 2 羽について、大和市での装着個体は 10 日間、相模原市での装着個体は 2 日間追跡することに成功し、いずれも捕獲場所と東工大への往来が毎日確認された。東工大から捕獲場所までの距離はいずれも約 26km で、これにより遠隔地（西部）におけるワカケホンセイインコが東工大から来ているものであることが証明された。

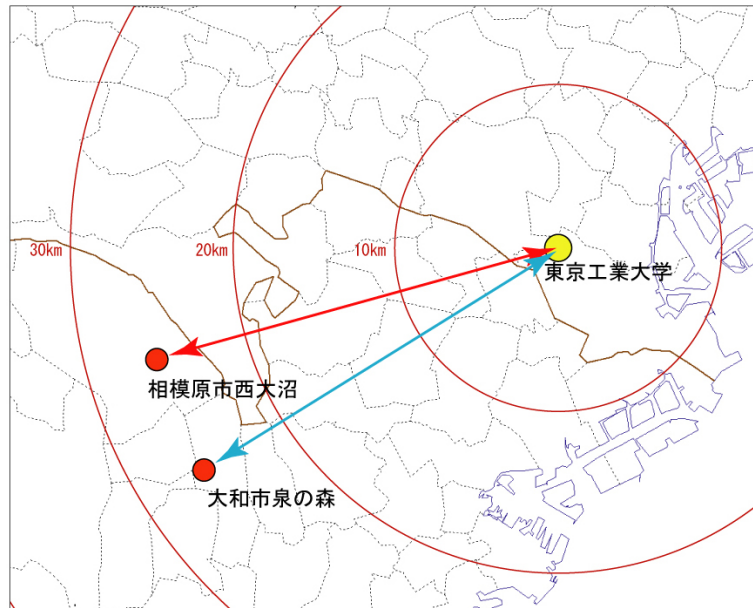


図 1. テレメトリー調査における移動事例

B. 標識調査

年間を通して 19 羽を捕獲し、カラーリングを装着した。しかし、再確認の情報は得られなかった。

C. 繁殖環境調査

東京都・神奈川県の22カ所において営巣を確認し、繁殖環境調査を実施した。

繁殖は樹洞だけでなく人工物においても行われており、ムクドリ等との競合が確認された。伊勢原市の事例では、毎年アオバズクが営巣していた樹洞でワカケホンセイインコが営巣したため、その場所でのアオバズクの営巣が確認されなくなった。また、結果として営巣はできなかったが、相模原市ではアオゲラがねぐらとして使用していた樹洞を巡って、アオゲラとの争いが確認されたほか、横浜市では樹洞を巡ってムクドリとの争いが確認された。しかし、ワカケホンセイインコが営巣しようとしていた場所をムクドリが乗っ取るという事例も確認されており、これらのことから、ワカケホンセイインコが必ずしも在来種を圧倒して分布を広げているわけではないことが推測された。ただし、営巣場所の分布が広がっていることは本調査や東工大における過去の調査でも確認されており、基本的には在来種と競合関係にあるため、今後の動向に注意が必要である。

表 1. 繁殖環境調査結果

No.	営巣木の種類	穴の形態	多種との競合	環境	何年頃から	確認された繁殖行動
1	ハルニレ	樹洞	無し	境内	不明	給餌
2	ハルニレ	樹洞	無し	境内	不明	給餌
3	ケヤキ	キツツキ	無し	住宅地	1988頃～	給餌
4	ケヤキ	樹洞	アオバズク	住宅地	1988頃～	給餌
5	ケヤキ	樹洞	無し	住宅地	2007～	給餌
6	建造物	建造物の穴	ムクドリ	団地	不明	給餌？
7	建造物	建造物の穴	ムクドリ	団地	不明	給餌？
8	建造物	建造物の穴	ムクドリ	団地	不明	給餌？
9	建造物	建造物の穴	ムクドリ	団地	不明	給餌？
10	ケヤキ	樹洞	アオゲラ	住宅地	2006～	巣穴を巡る争い
11	ケヤキ	キツツキ	不明	住宅地	2003～	給餌
12	巣箱	建造物	ムクドリ	公園	2005～	給餌
13	巣箱	建造物	ムクドリ	公園	2005～	給餌
14	巣箱	建造物	ムクドリ	公園	2005～	給餌
15	巣箱	建造物	ムクドリ	公園	2005～	給餌
16	スズカケ	樹洞	無し	公園	不明	給餌
17	スズカケ	樹洞	無し	公園	不明	給餌
18	ケヤキ	樹洞	不明	住宅地	不明	巣穴への執着及び排他行動
19	ケヤキ	樹洞	不明	境内	不明	巣内雛
20	ケヤキ	キツツキ	ムクドリ	住宅地	2003?～	巣穴を巡る争い
21	建造物	建造物の隙間	ムクドリ?	住宅地	2007～	巣内の雌への給餌
22	建造物	建造物の隙間	ムクドリ?	住宅地	2007～	巣内の雌への給餌

D. 分布及び餌内容調査

・分布

目視調査及び一般者からの情報により、東京都、神奈川県を中心に多くの情報を得た。図2にそれらの分布情報を記した(東工大の過去の情報を含む)。西部では最も東工大から離れた場所として、東工大から50km近く離れている秦野市西田原での情報がある。ここでの確認は庭の餌台に来たというものであるが、確認は短期間のみで、その後は確認されていない。次いで東工大から離れている確認場所として東工大から約37km離れた伊勢原市石田がある。この場所では1988年頃から確認されており、現在でも数つがいが繁殖を行っている。繁殖期には巣穴で就峙しているが、巣立ち後はこの場からいなくなるため、東工大まで戻っている可能性がある。しかし、その往来を確認することはできなかった。また、主要な分布域から外れた場所として横浜市金沢区での確認がある。ここでの確認は、庭のリンゴの木に飛来したというものであるが、来ていたのは幼鳥で、悪天候の間のみ滞在であったため、本来の分布から外れて迷行したものと思われる。北西部では、遠隔地として埼玉県入間市での確認が3例ある。東工大からは約35km離れているが、確認は1回だけか短期間であるため、定期的に飛来しているものではないと思われる。しかし、埼玉県所沢市(東工大から約32km)では繁殖しているとの情報も得られたため、今後の調査で情報をさらに蓄積して必要がある。

・餌内容及び食害

今年度の調査で確認された餌内容は、春期から夏期にかけては、サクラの花、実、落葉広葉樹の新芽、花芽、ヒマワリの種等で、秋期はカキ、リンゴ、ビワなどの果実の採餌が確認された。冬期は落葉広葉樹の冬芽の採餌が確認されたが、主に餌台への飛来が多く確認されており、餌台のヒマワリの種、ピーナッツ、リンゴを採餌しているとの情報が得られた。また、この他にも5月には観賞用の松葉菊を食べていたとの情報もあった。

農業被害に関しては、今年度の調査では確認することはできなかった。分布域にはナシやリンゴなどの果樹園も多く見られるが、農業者へのヒアリングでも、果樹園に飛来しているという情報は得られなかった。本種の分布域にある果樹園は、周囲を防鳥ネットで囲っているものが多く、これが弊害になっていると考えられる。しかし、観賞用の松葉菊の採餌や、庭のリンゴ、畑のヒマワリの種を食べられたとの情報もあるため、今後、農業被害へつながる可能性は否定できない。

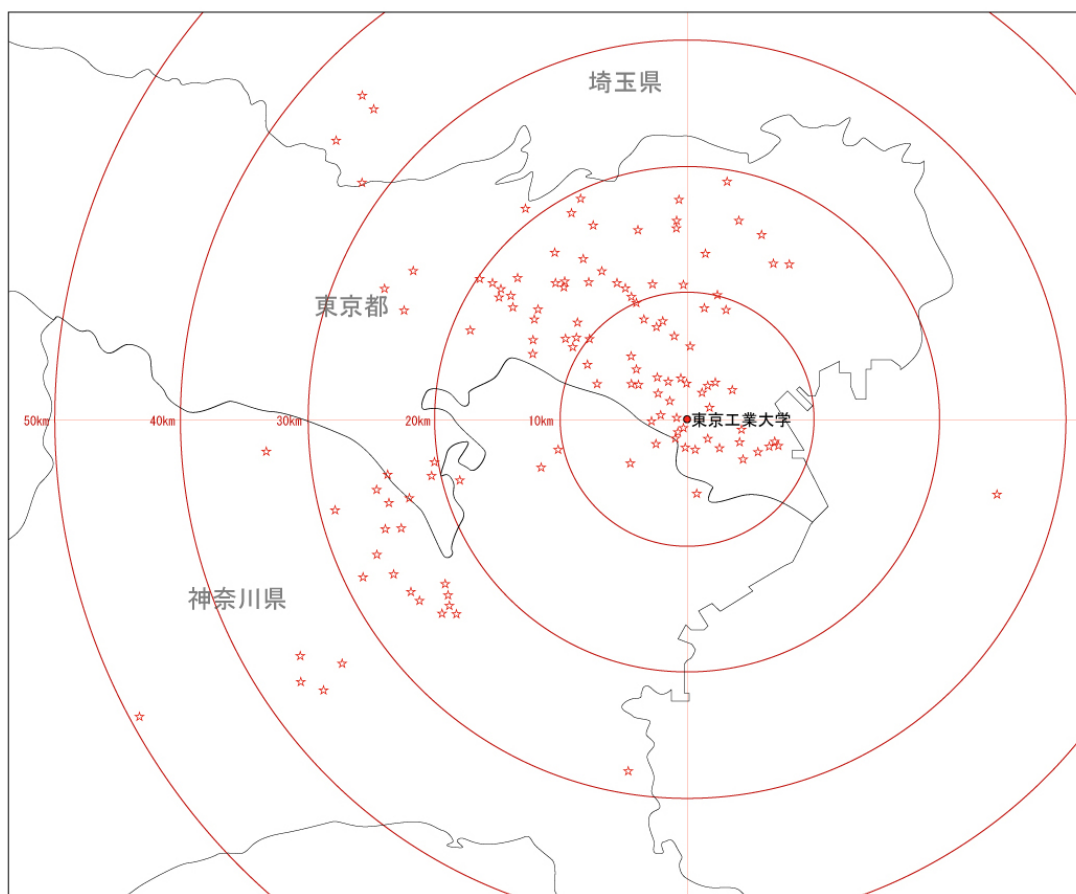


図 2. ワカケホンセイインコ分布状況（東工大の情報を含む）



写真 1. ヒマワリを食べるワカケホンセイインコ
撮影：佐々木茂氏



写真 2. リンゴを食べるワカケホンセイインコ
撮影：高橋秋正氏

E. その他の地域での確認

目黒区の東工大を中心としたグループとは別に、千葉県中央区や稲毛区、若葉区でも分布している。これらは現在千葉市中央公園で就峙しているが、個体数は20羽前後と少ない。また、群馬県前橋市等でも小さなグループが確認されているが、こちらも20羽以下と少ない。また、沖縄県の西表島からも記録が寄せられたが、単独個体であり、定着個体の可能性は低いと推測された。